2025 年度　雇用者アンケート結果　報告書

本調査は，本学看護学科のディプロマ・ポリシー（D1～D8）が，卒後 2 年目の看護職者としての実践においてどの程度発揮されているかを，雇用者からの評価に基づき検証し，教育改善につなげることを目的とした．

I.　調査内容

A.　対象

2023 年度卒業生（卒後 2 年目）が在職する附属病院および外部施設（病院および保健所）の師長もしくは看護部長とした．

B.　評価対象

評価対象となった卒業生（29 期生）は，卒業者数 55 名のうち附属病院就職者 31 名（本院 18 名，葛飾 9 名，第三 4 名），外部施設 16 名，保健師 2 名であった．

29 期生は，2020 年度入学（入学式中止，部活動制限あり），2021 年度の看護への思いを新たにする式は当日中止，2023 年度 5 月から COVID-19 が 5 類に移行するなかで大学生活を送った学生である．入学当初から様々な制限が課されたため，実習での経験が乏しいことに不安や焦燥感を抱き，3 年生の領域別実習では貪欲に学ぼうとする姿勢が顕著であった．学中のカリキュラムは，『2019 年度カリキュラム』（情報科学の時間数増加，「ボランティア論」「サービスラーニング」等の選択科目を増設，国際的視野を強化（英国キングス・カレッジ，シンガポール大学，国立台湾大学等との交換留学制度））した教育を受けていた．

C.　アンケート実施時期

2025 年 10 月～12 月

D.　調査項目および評価方法

調査項目は，「あなたの部署にいる看護学科卒業生(2024 年度就職者)を通して感じた看護学科の学びについて教えてください」とし，各 DP の能力が現行の業務で生かされているかについて 4 件法（1．思わない，2．あまりそう思わない，3．まあそう思う，4．そう思う）で回答いただき，就業環境から該当しない場合は「5．判断材料なし」と回答いただいた．また，卒業生の看護師能力における強み，看護学科教育への改善希望，卒業生のスキルや特徴で気づいた点について自由記載で回答を依頼した．

E.　方法

学事課を通じて，看護学科卒後 2 年目が在職する附属病院（附属病院，葛飾医療センター，第三病院）および外部施設の各看護部長や所属長へ調査の趣旨と内容説明の書面，自記式質問紙を郵送した．記入いただいた質問紙は，同封した返信用封筒に入れて学内便もしくは郵送で返送していただいた．

II.　結果

A.　回収率

1）全体

全 21 施設（附属病院 3 施設，外部病院 16 施設，保健所 2 施設）に 37 部の質問紙を送付し，10 施設から 26 部の回答を得た．配布部数からみた全体回収率は 70.2%であり，例年よりもやや低い回収率であった．

2）附属病院（図 1）

附属病院（附属病院，葛飾医療センター，第三病院）の回収率は 79.2%であった．施設別の回収率は，附属病院 76.9%，葛飾医療センター85.7%，第三病院 75.0%であった．

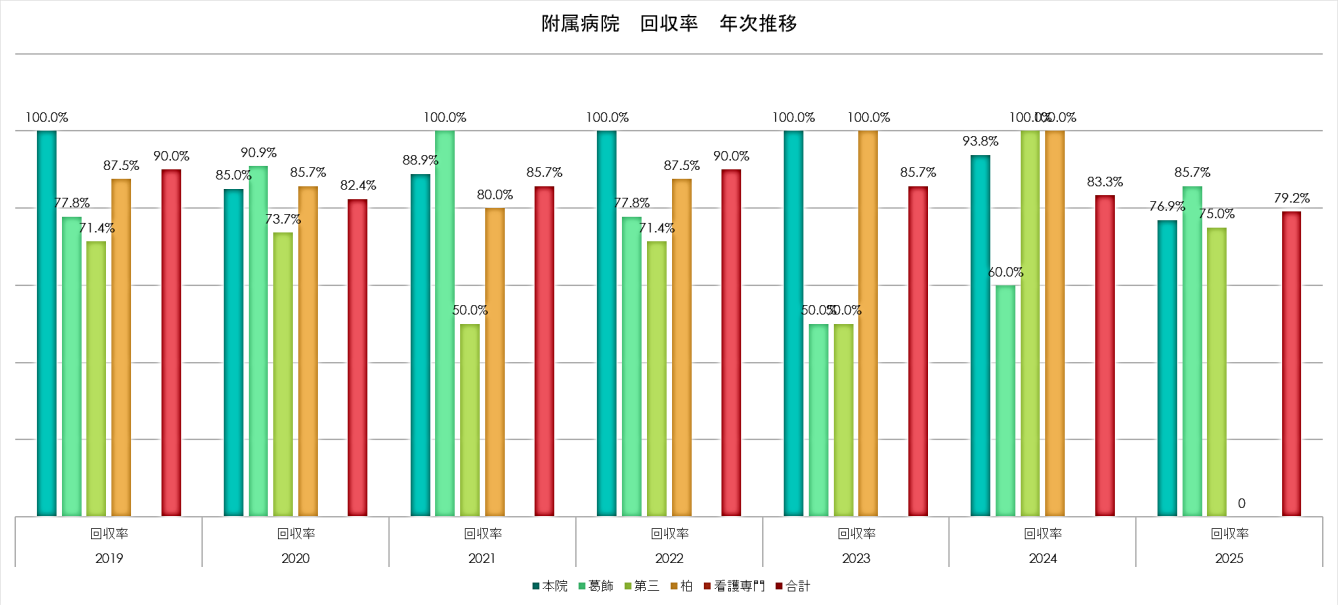

図 1　附属病院の雇用者アンケート回答率（2019 年度から 2025 年度）

3）外部施設（図 2）

外部施設の回収率は 53.8%であった．そのうち，1 部は設問 2 のみの回答であった．

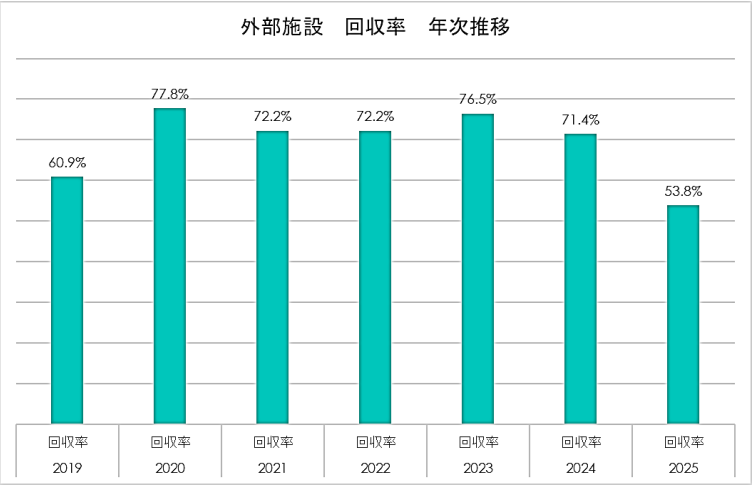

図 2　外部施設の雇用者アンケート回答率の推移（2019 年度から 2025 年度）

B.　看護学科で涵養した DP1～8 の量的評価

2023 年度以降の調査結果と比較したところ，全 DP において概ね例年と同様に高評価を維持していた（図 3，4）．特に，DP1「主体的学習能力」，DP3「パートナーシップ」，DP5「倫理的態度」，DP6「教養に裏付けられた品格」，DP7「メンバーシップ・リーダーシップ」は，附属病院・外部施設ともに「そう思う」「まあそう思う」が 8 割を超えた．一方，8 割に満たなかったのは附属病院で DP2「課題解決能力」であった．2025 年度は，これまで判断材料が乏しいとされていた DP4「地域医療連携能力」や DP8「国際的視野」において，評価の上昇が認められた．

C.　DP 別にみた質的評価の特徴

雇用者が評価した卒後 2 年目の実践能力に関する DP ごとの自由記載（表 1）においても，DP1，DP3，DP6，DP5，DP7 は高評価であった．また，評価が比較的低い DP2 は評価が分かれており卒業生による差が大きい能力であることが推察された．一方，DP4，DP8 は，実践場面や経験の限定により評価が相対的に低いが，限られた中でも能力を発揮している卒業生が増えつつあることが確認された．各ＤＰ別の特徴性評価のポイントは以下である．

- DP1：主体的学習姿勢，研修参加，自ら振り返り次につなげることができる能力が高く評価された．
- DP2：知識獲得や解決しようとする姿勢が評価される一方，臨床で生じた疑問や看護を追究しようとする思考や行動の乏しさも指摘された．
- DP3，DP6：患者・家族・スタッフに対する丁寧な対応，人間性や品格が顕著な強みとして評価された．
- DP4：地域医療に携わる職種との連携についての理解や能力が評価された．
- DP5：倫理的配慮や内省する姿勢が一貫して評価された．
- DP7：チームの一員としての協調性の高さが評価された．一方で，リーダーシップは成長過程である．
- DP8：外国人患者や留学生への積極的な関わりが評価された．

表１　雇用者が評価した卒業生の実践能力：DP ごとの自由記載

DP1　主体的学修能力		
	附属病院	外部施設
高評価	・　分からないことは自ら調べたり、研修へも積極的に参加したりできている。 ・　看護が滞りなく行えるよう必要に応じ学習している様子がある。 ・　提出物が直前になるなど、指導を加えながらの日々である。 ・　振り返る機会を設けて次の実践に生かしている。 ・　研修での発表等主体的にとりくむ姿がある。 ・　分からないことをそのままにせず、必ず上司や先輩に確認をして主体的に取り組んでいる。	・広く経験していきたいというビジョンがあり経験するチャンスは逃さず実践している。 ・院内外の研修に主体的に参加している。 ・自己学習・院内研修ともに積極的に取り組めている。 ・院内研修受講時なども目的目標に応じて学ぶことができている。
低評価	・　積極性は特にみられない	・　院外研修の参加がないため。
DP2　課題解決能力		
	附属病院	外部施設
高	・　よく考えて実践することができている。	・　2 年目として知識が必要と思った部分

評価	・ 問題と思われる事象について解決しようとする姿勢があるが支援が必要。 ・ 患者の変化を予測するための観察の必要性を理解し実践できている。	は自主的にセミナー等受講している。 ・ 2 年目相当の力は発揮できている。 ・ 学びを実践に結び付ける力は先輩の日々の指導により身についていると思われる。
低評価	・ 看護実践について何が看護だったのか考えることが苦手である。 ・ 臨床での疑問を深堀りすることは少なく感じる。	・ 論文や理論を見ていることがあまりないため。
DP3　パートナーシップ		
	附属病院	外部施設
高評価	・ 患者家族によりそい、いい関係性をつくることができている。 ・ スタッフと良い関係性を築けている。 ・ 患者と共に治療の道を歩む力に現在取り組みの中で強化している。 ・ 争うことなく普通に関係性が構築できている。 ・ 患者の持てる力を発揮できるような関りを日々目指している。	・ 患者と良好な関係を築き頼りにされている。 ・ 対象への丁寧さを感じる。 ・ 対象を尊重するところはとても共感するが、対象によってムラがあるため評価を一段階下げた ・ 同期や先輩とも良好なコミュニケーションが取れている。
低評価	・ 患者さんに共感したりもっと良くなるために何ができるかもう一歩踏み込めるようになってほしい。	・ あまり表出することがないため。
DP4　地域医療連携能力		
	附属病院	外部施設
高評価	・ 在宅室のナースと協働する力はある。 ・ 知識を活用しながらというよりは事例ごとに先輩に道筋を立ててもらっているので今後知識と関連づけるとよい。 ・ 小児科外来での訪問看護師との連携を大切にしている。 ・ 地域連携において先輩の力を借りながら患者に必要なサービスの導入ができている。	・ 2 年目としての地域の連携について理解できている。 ・ 多様性との連携は今後知識をつけていってほしい。
低評価	・ そもそもの退院支援やシステムについての理解不足。 ・ 病棟の患者背景からかこの力を発揮する場面が少なく先を見据えて関わる力もまだ成長過程だと思われる。	・ 地域連携にまで思考は及んでいないが退院支援には取り組んでいる。 ・ 評価対象者の同期の中で劣っているわけではない。 ・ 現在 NICU で地域について考える機会が少ないため。
DP5　倫理的態度		
	附属病院	外部施設
高評価	・ 内省する力がある。相手を尊重することができている。 ・ 自己の看護や他者の発言に対し助言を与えることで内省できる。 ・ 患者さんには丁寧に関われています。体調の価値観に触れることは意識して行うよう支援している。 ・ 問われると考えることはできているが自ら気づき発信することは課題。 ・ 対象を尊重しながら看護ができている。	・ 患者の立場になって考えることができている ・ 周囲を尊重し自分が何をすべきか考えられる ・ 患者だけでなく誰に対しても相手を尊重した対応ができる
低評価	記載なし	・ 特記する事項は現在なし（評価 2）
DP6　教養に裏付けられた品格		
	附属病院	外部施設
高評価	・ 丁寧で謙虚である。品格もある。 ・ 患者にとって適切な言葉づかいができる。 ・ 問題ありません。 ・ 可もなく不可もなく ・ 言葉づかい等安心して任せられる。	・ 周囲の人が安心する対応･態度をとることができている。 ・ 接遇を保ち周囲を不快にするようなことはない。 ・ もともとの育ちもあると思うが誰に

	・ 患者や家族から感謝の言葉が聞かれることもあり勤務態度も良い。	対しても丁寧に対応できている。 ・ 他者に合わせて対応はできている。
低評価	記載なし	記載なし
DP7 メンバーシップ・リーダーシップ		
	附属病院	外部施設
高評価	・ メンバーシップはとてもある。 ・ スタッフの助言をうけてメンバーシップを発揮できる。 ・ 問題ありません。 ・ 個人の特性もあると思うが主体性には欠ける。 ・ 慣れてきた今の部署で続けたい。 ・ 個人差がある。自分の仕事に集中し丁寧に実施できている一方でチームの動きから外れてしまう。それぞれの良さを伸ばし成長できればよい。 ・ 院内のプロジェクトに急に欠員がでて出席したが内容を１年目看護師に伝えていた。 ・ チームの一員としてメンバーシップを発揮しようと積極的な声掛けがある。	・ メンバーとして行動できている。 ・ 周囲との協調を重んじメンバーシップを発揮するがリーダーシップはこれから。 ・ セルフコントロールがしっかりとされている。 ・ チームで協力する姿勢はとても高い。
低評価	・ 発信力がもう少しあるとよい。	・ 自身で今はまだ大変なため。
DP8 国際的視野		
	附属病院	外部施設
高評価	・ １人は海外に興味を持ち、海外の患者へも英語を使いコミュニケーションをとっている。 ・ 留学生との交流に積極的だった。	・ 病院内で活用する機会はあまりないが特に不足しているとは思わない。
低評価	・ 英語力を見る場面がない。国際看護にふれる場面がない。 ・ 興味はないようです。 ・ 活用する場面がない。 ・ 実践する場がない。	・ 関心は見られないが外国人への対応も様々なデバイスを利用し実践できている。 ・ 現在は全くみえていない。

※高評価：４「そう思う」3「まあそう思う」，低評価：２「あまりそう思わない」１「思わない」

D. 雇用者が評価した卒業生の強み

自由記載をまとめた表２から，卒業生の主な強みとして以下３点が抽出された.

①主体性・学修態度

✓ 院内外やセミナーへの積極的参加，インシデント後の自己学習や振り返り，明確な目標・信念をもって行動する姿勢が挙がった.

✓

②対人関係・人間性

✓ 患者・家族に寄り添う姿勢，丁寧で謙虚な態度，安心感を与えるコミュニケーション，チーム内での良好な人間関係構築力が挙げられた.

③チーム医療への貢献

✓ メンバーシップを意識した行動や忙しい状況でも周囲に配慮し，協力的に業務を遂行する力，医療安全や多職種連携への主体的関与が挙げられた.

表２　卒業生の強み

附属病院	外部施設
・ "チームの中でメンバーシップを発揮する、気配り、行動力が強みではないかと思う。 ・ 柔軟に他者の意見、動きに合わせて行動することができるため。" ・ 相手に寄り添い、相手のニーズに合ったケアを実践することができている。人間性もすばらしい。 ・ 助言が得られれば自ら考えようとする力がある。 ・ "・看護実践に必要な学習に意欲的である（オンライン・看護協会主催等） ・ ・目標が明確であり配属部署内で活かせる能力を学ぶことをしている。 ・ ・学び→後輩周知にして活躍を期待している。 ・ "真面目に患者さんと関わり日々成長できている。 ・ 置かれた環境に身を置きながら困難もあると思うが周りの力を借りて乗り越えている。周りが助けてあげようと思う彼女の人柄や実直な姿勢が強みである。" ・ 特になし ・ 主体的学修能力が高いと思います。インシデントがあった際、先輩との振り返りに合わせて自己学習を行い、病気や治療の意味をおさえ次につながる学習をしていた。 ・ 患者の思いをキャッチし看護に活かすことができる。チームメンバーとしての自覚をもって看護実践することができる。 ・ 入職当初の面接で看護の対象を限定させる発言があり、多様な思考で患者を捉えていくには固執した考えだと修正が難しく、どのように育成するか悩んだ覚えがある。２年目になり思考の幅が広がったと感じているが、内省してじっくり考えたことに関しては強い信念を持ち目標達成に向けて行動できることが強みだと思う。 ・ 実践力がついてきたのに加え、周囲へ目が向きメンバーシップを発揮している。 ・ 問題を起こすことなく仲間とも仲良く淡々と仕事をこなすことができる。（まだ持っている能力をこちらが引き出しきれていないのかもしれない） ・ "指示や依頼されたことを確実に丁寧に実践できる。 ・ 考える力がある。" ・ 目の前にいる患者にとって必要な看護が提供できるようにチームで情報共有し実践できるところ。 ・ 主体的に患者を診ようとする姿や医療安全係としてのメンバーシップを発揮することができている。 ・ 仕事において主体的に取り組む姿勢は同学年の他校出身者よりも強くみられる。自身が知識や技術を習得していくことで安全な医療を提供できることに繋がっていくと理解し、行動にも表れている。 ・ "理論的に推論する力 ・ 情熱的かつ冷静な患者対応"	・ 患者・家族・スタッフに対していつでも話しやすい雰囲気で対応できる。患者は安心して治療を受けられ不安なども言いやすい。スタッフもコミュニケーションをとりやすいのでチームの雰囲気がよくなる。 ・ 患者の合併症の早期発見に努め、おかしいと気づいたことには自ら助けを求めたり、特定行為ナースに相談したり、患者・家族やその他専門職からも情報を得て回復に向かうように立ち振る舞えている。それをケアに活かすこともできている。 ・ 粘り強く追及できるところ。様々な問題を抱える患者について自分の手には負えないと投げ出さず、主体的に先輩や医師へ相談し看護問題を明確にした。 ・ １年目の秋頃、困っている患者をどうにかしたいがその手段がないと師長のところまで相談に来るほど熱心である。なかなか行動にうつすことのできないスタッフが多い中、プライマリーとして一患者と向き合い行動したことがとても印象に残った。 ・ もともとストレスを感じないタイプであり、病棟が忙しい状況でも自分の業務を遂行する能力がある。また精神的にも安定しているため信頼できる人材である。インシデント発生時も自己の行動を客観的にふりかえり、次につなげることができる。 ・ 忍耐力がある、入職同期が退職していく中でも頑張り続けている。 ・ 対象となる人々に対し、丁寧に対応し、継続して関わり看護職としてできることを真摯に向き合い、周囲のスタッフとも相談しながら悩みながら対応している。

C.　看護学科教育の成果を基盤とした発展的改善点

看護学科卒業生は，主体性，人間関係構築力，メンバーシップ，倫理性において高い評価を得ている．今後も質の高い教育を維持していくため，得られた回答から発展的改善点として以下 2 点を整理した．

①課題解決能力のさらなる深化（DP2）

✓　課題を深く掘り下げ，理論やエビデンスと結び付ける力を伸ばす

②社会人基礎力・態度のさらなる成熟（DP6）

✓　社会性，多角的視点の獲得

表 3　教育の改善点

・　生死に対応するとき、緊迫した状態が続くときなどのメンタルコントロールについて学生のうちに考えたり学べたりすると良い。 ・　「病気を診ずして病人を診よ」は当人から今でもスラスラと出てくるくらい大切なワードだと感じたので今後も大切にし続けてほしい。 ・　医療職の学会や研修会の情報を得る機会や実際に学会に参加できる機会があると就労後も意識していけると感じた。

表 4　卒業生のスキルや能力，特徴について

附属病院	外部施設
・　D1 主体的学修能力　今後自分がどうなりたいのか、自分の考えや主張は明確に表現できる。 ・　バランスよくスキルを身につけていると思う。 ・　感情のぶれがなく、落ち着いた態度で患者さんと接することができている。 ・　患者の立場に立ってみる、想定することが知識と重なるとより看護師として慈恵の大切とする今人的な支援となると考える。 ・　主体的学修能力やメンバーシップにおいては特に身についている。看護師としての能力を日々発揮できている。	・　自主的にセミナー受講したり主体的に学修している。明確な看護師としてのビジョンはまだないが、様々な診療科・部署を経験したいという希望を発信し、チャンスがあれば業務が緊忙でも積極的に経験している。 ・　DP について知らなかったが、項目すべての視点を持ち備えているからこそ行動に現れていると思う。こちらの継続教育や他のスタッフへも波及できるように取り組みたい。 ・　主体的に学ぶという点に長けている。 ・　D1～D8 は大切なことだと思う。職業人 1 年目で卒業する時のイメージを持った上でのそれぞれの目線が本人の中にもあると学生の時とリンクできるのかもしれない。 ・　様々な能力をバランスよく獲得し業務に生かして前向きに対応している。

表 5　大学に伝えたい事

附属病院	外部施設
・　いつもお世話になっております。卒業生のみなさんはイキイキと楽しく優しい看護を提供してくれています。今後ともよろしくお願い致します（本院） ・　今後ともよろしくお願いいたします（本院）	・　このような機会をいただきありがとうございました。D1 の主体的学修能力が働きながらも身につき向上できるように私たちも励みます。 ・　お世話になっております。添付していただいた資料で貴学のポリシーをよく理解することができました。DP によって育まれた優秀な人材を大切に育成し、患者さんへ結果を出せる看護師になってもらいたいと期待しております。今後ともよろしくお願いいたします。 ・　常に笑顔で前向きに働き続けることができています。その笑顔が絶えないよう、頻繁に地元に帰ることができるよう勤務表で支えております。このようなアンケートが届いたことも本人に伝えまし

	た。卒業しても気にしてもらえていると喜んでいます。アンケートを数年後に再度することで本人が見守ってもらえているという安心感にもつながるかもしれません。 ・　優秀な人材で、今後の活躍も期待している。

III.　点検・評価と改善点

A.　点検・評価

雇用者アンケートは 2019 年度に開始し本年度で 6 年目を迎え，本学卒業後 2 年目を対象とした調査は４回目であった．附属病院および外部施設の調査・回収率は 70～80%台で推移していたが，今年度はやや低下した．しかし，卒後 2 年目を評価対象として調査を開始した 2022 年度以降，卒業生が涵養した DP の実践における活用度についての評価は，今年度も概ね高評価が維持されているといえる．さらに，今年度は DP4 および DP8 の評価が上昇したことが特徴的であった．

B.　改善の方針

本調査結果より，本学看護学科の教育はディプロマ・ポリシーに基づく成果を概ね達成しており，卒業生は臨床現場において高い評価を受けていることが確認された．一方で，課題解決能力の深化や社会人基礎力の育成については継続的な改善が必要である．

①課題解決能力の深化

看護学科では，2025 年度拡大カリキュラム情報交換会で提示された「看護学科カリキュラムで教授している看護理論・概念の全体像」のとおり，1 年生から 4 年生の各科目において様々な理論を教授している．教学委員会やカリキュラム委員会，各領域において，理論と実践を結びつける学びの仕組みを検討し，理論の意識づけと根拠に基づいた看護実践を促進していく．

②社会人基礎力の成熟

2020 年度以降の入学生は COVID-19 による様々な制限を高校生活で経験しており，それらが強みとなっている場合もあれば，社会性の獲得に課題を抱える学生も少なくないと予測される．そのため今後は，従来以上に在学中の学生生活への支援や実習における手厚い指導が必要になると考えられる．本学科の高い教育水準を維持しつつ，実践力と看護の新たな地平を切り開く力を兼ね備えた看護職者を育成するために，臨床教員や保護者会との連携を増強し，医療人としての志向性・態度を促し支える教育が一層重要となる．

また現在，拡大カリキュラム情報交換会では，効果的なカリキュラム運営のために授業の受け手である学生から教員へフィードバックが行われているが，より良い授業や実習の在り方について教員からも問題提起し学生に考えてもらう機会を設け，より一層の成熟を促す．

③回収率の向上

今年度の調査では，特に外部施設の回収率が低下した．外部施設の回収率を上げるために，回答期間の延長や督促状の送付などについて検討する．

以上

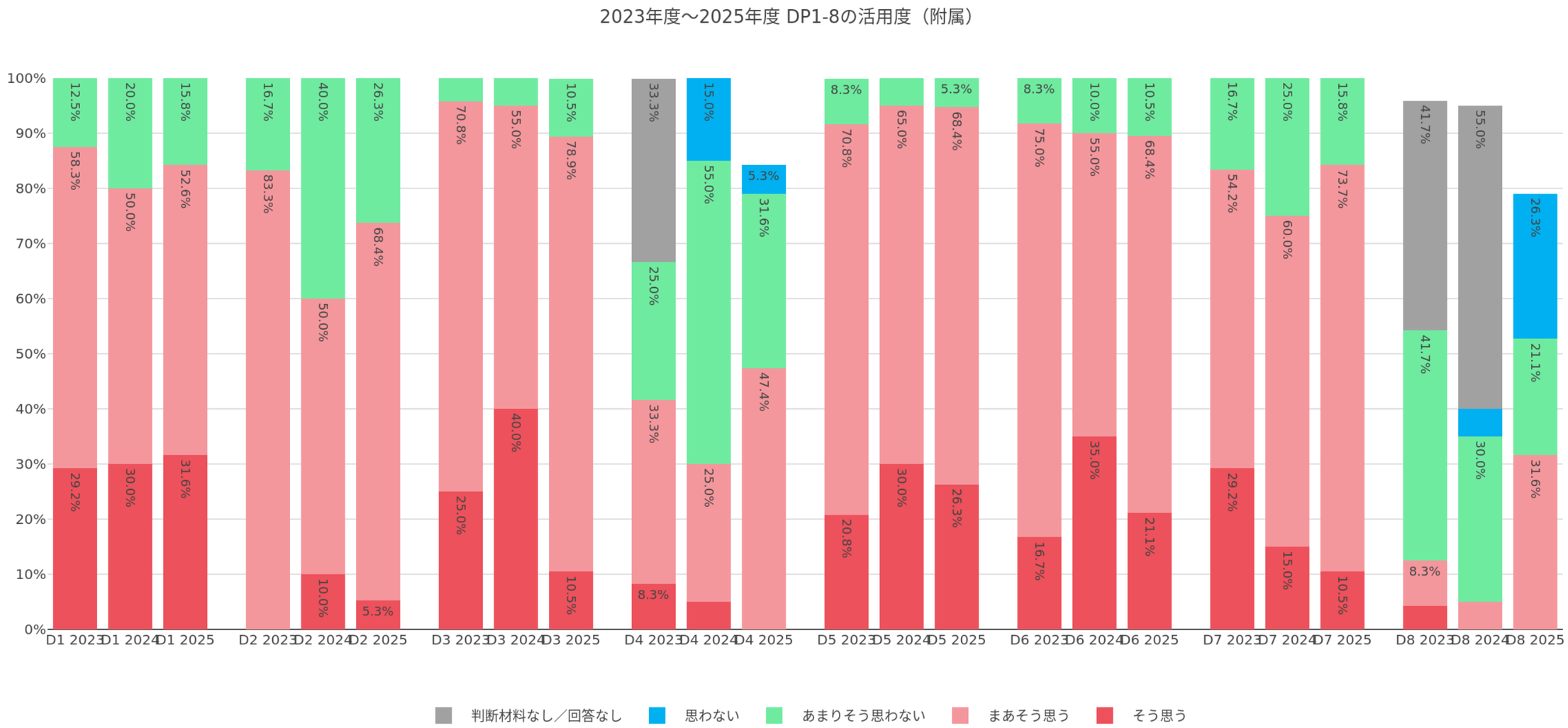

図３　DP1～8 の評価（附属病院）

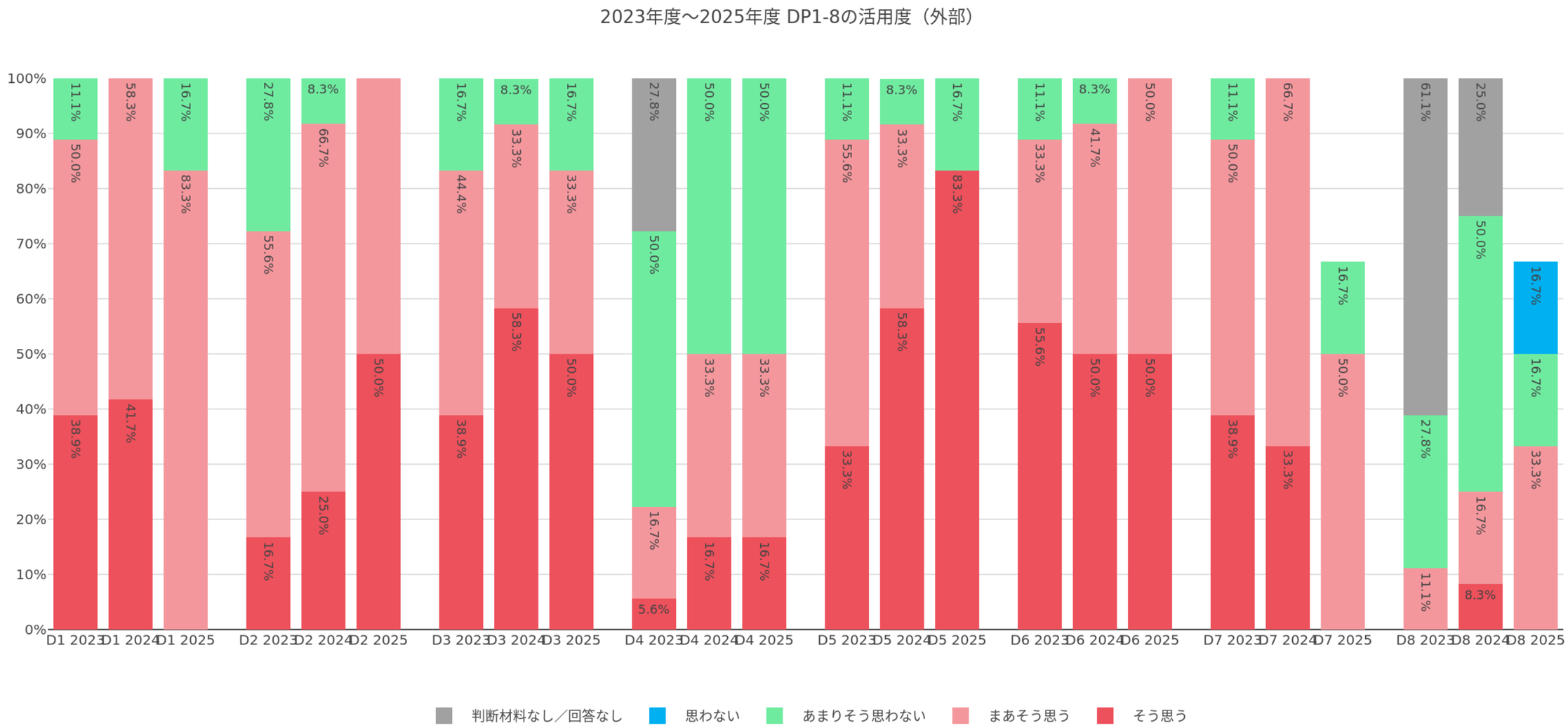

図４　DP1～8 の評価（外部施設）